

若杉 輝久(公明党議員会)

市立病院の差額ベッド代について

質問 市立病院は「市民のための病院」であることを標榜しているが、入院の際、大きな負担となる差額ベッド代についての見解を伺う。

答弁 …市立病院事務局長

市立病院では、厚生労働省の通知に基づき、正面玄関や各病棟に特別療養環境室のベッド数や料金を掲示するとともに、入院患者が差額ベッド代の必要な個室を希望する場合は、十分な説明を行い、差額ベッド代が徴収される個室に入ることについての同意書をもらった上で、ご利用いただくことを基本としています。

患者が差額ベッド代の必要な個室を希望しない場合で、治療上、個室の利用が必要な患者については、重傷者等療養環境特別加算に係る個室や、差額ベッド代を徴収していない個室等に対応するなど、適切な運用に努めており、大部屋が空いていない場合の患者の意思を無視した個室の利用による差額ベッド代は、請求できないものと考えています。今後とも、差額ベッド代については、患者の相談窓口の充実や、患者への十分な説明等により、ご納得いただく中で請求していきたいと考えています。

山条 忠文(同志会)

市営住宅申し込みの際の資格審査について

質問 昨年度の市営住宅の申込人数と当選者数について伺う。

また、本市では、抽選の前に市税納付証明書の提出を求めて入居者資格を審査する事前審査方式をとっているが、申込者の負担を軽減するという観点から、抽選後に資格審査を行う事後審査方式の導入を検討すべきであると思うが、市の見解は。

答弁 …都市建設部長

昨年度の市営住宅の申込人数と当選者数については、募集戸数が16戸に対し、応募者が59名で、入居した世帯が14世帯であります。

現在、本市においては、市営住宅の入居申し込み時に、入居資格を判断するため、入居申込書にあわせて、所得額と市税の完納を証明する市税納付証明書を提出していただいております。

しかしながら、現在は募集数に対して応募数が3倍以上となっている状況であり、申込者の負担の軽減等を考えると、透明性の確保のために設けております坂出市営住宅入居者選考委員会の意見や他市の状況等も踏まえ、今後、入居資格の事後審査について検討していきたいと考えています。

財政健全化に基づく財源確保の今後の進捗について

質問 平成20年度の決算見込みは、現在どうなっているのか。また、経営状況の悪化している特別会計について、今後の解決策を伺う。

答弁 …総務部長

普通会計における平成20年度実質収支見込額は、平成19年度実質収支額7212万1000円に比べ、さらに改善される見込みとなっていることから、普通会計における平成20年度決算に基づく連結実質赤字比率等の4つの指標については、全て早期健全化基準を下回り、クリアできるものと見込んでいます。

また、平成19年度決算において資金不足が生じていた特別会計は、坂出港港湾整備事業特別会計と土地地区画整理事業特別会計であります。

これらの特別会計の今後の解決策については、国が創設した「第三セクター等改革推進債」等を活用し、財政健全化を早期に図るべきと考えていますが、こうした起債の発行は、結果的には、後年度に多大な公債費負担を強いることになることから、実質公債費比率の将来的な推移や影響などを予測した上で、検討していきたいと考えています。

市立病院について

質問 病棟の新築に向けた計画案の早急な策定について、また、市立病院事業への地方公営企業法の全部適用について、市はどう考えるか。

答弁 …市長

病棟の新築については、厳しい財政の問題はありますが、効率的かつ効果的な病院運営に努め、市民の安全・安心の確保と、地域医療の標準化・充実を図るという観点から、早急に全面的な整備を進める必要があると考えています。

また、地方公営企業法の全部適用については、今後、市立病院のあり方を検討する中で、検討していきたいと考えています。

答弁 …市立病院長

市立病院の建築物は、築40年以上が経ち、老朽化が進んでいます。耐震性はもちろん不足し、有効スペースが狭く、その配置・形態とも、現在の医療を提供するには極めて不十分な設備となっています。引き続き、市民が安心して暮らせ、心の支えとなる医療を提供するには、早急な新築を要するものであります。

議会、市民の皆様のご支援、ご指導をお願いしたいと思います。